

第59回全国学校保健研究大会および全国学校薬剤師大会報告書

会長 西村 正広

1. 全国学校保健研究大会

日時：平成21年11月10日(火)・11日(水)

場所：広島市 広島国際会議場

課題別研究協議会(第10課題 喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育)

安全で豊かな社会と健康を守り育てるための喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育の進め方

研究発表

心身ともに健康な児童の育成を目指して

- 児童のセルフエスティームを高めることで、喫煙・禁煙・薬物に適切に対応する力を育てる -

埼玉県川口市立東領家小学校 教諭 坂根伸子先生

養護教諭 佐野朋子先生

セルフエスティーム(自尊心)を高める健康教育の推進で「自分の心と体を好きになるぞ!」をスローガンにあげ、1年~6年で、理解するテーマを決め、喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育を実践している。

中学校における喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育の効果的な進め方

- 特別活動・教科等を中心にした指導実践を中心に -

広島県竹原市立竹原中学校 養護教諭 澤田良子先生

全校生徒の前で、教員による「誘いを上手に断ろう!」のロールプレイングを行っている。文化祭において「STOP!タバコ&酒」というテーマで生徒が啓発コマースを作製、活動している。内容はパソコンの関係で動かなかったのが、残念でした。

健康な学校づくりを目標とする喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育

- 学校、家庭及び地域社会が連携した喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育の進め方 -

香川県立高松西高等学校 養護教諭 柳谷貴子先生

放課後を利用して、毎年、内科・耳鼻科・眼科の学校医や学校歯科医、学校薬剤師をはじめ、整形外科医(スポーツドクター)、皮膚科医、精神科医、婦人科医、看護師、助産師、臨床心理士、栄養士など、多くの専門家の協力を得て、健康相談を行っている。

また、生徒保健委員会、教職員保険部、PTA保健委員会、学校保健委員会、地域学校保健委員会が、それぞれ活発に活動している。

指導助言

安全で豊かな社会と健康を守り育てるための喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育の進め方

大阪府教育委員会事務局教育振興室保健体育課 首席指導主事 岸田吉史先生

3校の研究発表者に追加発言を求められ、活発な質疑応答が行われた。

講義 ライフスキル形成を基礎とする喫煙，飲酒，薬物乱用防止教育

神戸大学大学院人間発達環境学研究科 教授 川畑徹朗先生

米国のCDC（疾病管理・予防センター）は青少年期の以下の6つの危険行動を抑制することが、現代の健康問題を解決する上で最優先課題であるとしている。

- ・故意または不慮の事故に関する行動
- ・喫煙
- ・飲酒及び薬物乱用
- ・望まない妊娠・HIVを含む性感染症に関係する性行動
- ・不健康な食生活
- ・運動不足

そして、上から4つが喫煙，飲酒，薬物乱用に関係している。

小学生には飲酒、中学生には喫煙、高校生には薬物乱用防止のプログラムを組んで教育していけば効果的と言われた。JKYB ライフスキル教育研究会を紹介された。

2．全国学校薬剤師大会

日時：平成21年11月10日（火）16時30分～

場所：広島市 広島国際会議場

特別講演「たすきをつなぐ 心をつなぐ」

中国電力陸上競技部 監督 坂口 泰先生

弱小チームからオリンピックに出場できる選手の育て方などを話された。最後に、ドーピングに対する姿勢を話された。例えば、目を離した食事は食べない。新しい食事を頼むそうです。また、未開封のペットボトルは飲まない。世界のトップアスリートは、そこまですているのかと、スポーツファーマシストの重要さを感じました。

第60回全国学校薬剤師大会および全国学校保健研究大会は平成22年11月18日（木）

- ・19日（金）に群馬県前橋市で開催される予定。

第59回全国学校保健研究大会（第8課題 学校環境衛生）報告
平成21年11月11日（水）広島国際会議場 報告者 深井邦彦

快適な学校環境づくりをめざす学校環境衛生活動の進め方

研究発表1．計画的・組織的な学校環境衛生活動の実施と事後措置

- 学校環境衛生活動の目指すもの -

愛知県学校薬剤師会 副会長 木全勝彦先生

小牧市学校薬剤師会の検査項目と内容について詳細に紹介。薬剤会のマニュアル作成によりフォームの統一化ができフィードバックが可能となり、問題意識や教育現場での変化から学校関係者と協力体制ができた話や プール指導が改善に繋がった話や夜間高校のブルーヒーターと欄間換気の話など。

研究発表2．学校環境衛生活動の徹底を図る取り組みについて

- 安全で安心して学校生活を送れる環境作りを目指して -

島根県立三刀屋高校 養護教諭 中澤悦子先生

安全、安心な環境づくりは自己肯定につながり、欠席の減少や生徒相互の協力しやすい状況を生んで、アンケートの学校評価も年々上がり、自己の力を発揮できるようになって学校生活の満足度も上昇して、奉仕活動・スポーツ等を通して、学校が活気づいてきた。

研究発表2．熊二っ子の学校環境衛生活動

- 自主的に活動し、習慣化できる児童の育成をめざした学校環境衛生活動の実践 -

広島県安芸郡熊野町立熊野第二小学校 養護教諭 稲垣直美先生

学校薬剤師との連携と助言により、学校環境衛生への意識が高まり、段階的な学校環境衛生活動の実践による自主的な取り組みの増加。「気づきの場」「考えの場」「行動の場」「習慣の場」のサイクル活動の話と、今後の生涯の健康へとつなげていくための取り組みの大切さと「感動する場面」を取り入れた心を育てる環境づくりの大切さを話された。

講義．新しい「学校環境衛生基準」に基づく学校環境衛生活動の進め方

岐阜薬科大学 教授 永瀬久光先生

学校環境検査の完全実施と事後措置についての話。落下細菌検査や自校学校給食検査や検査記録保存（定期・臨時5年、日常点検3年）や、8条、9条の健康相談・保健指導についての他、薬剤師は分析の専門家であり、精度の高い機器がなく検査が外部委託される昨今、せめてサンプリングに立ち会う必要があることを話された。他に、EM菌やウォータール日焼け止めクリームの話も。